

# 【ねがいましては】

平成25年12月20日

KYOWA SCHOOL

第278号

「達成感」

毎年この時期になると、なんとなく中だるみになってしまう子たちがいます。毎月行うことのできる全国統一模擬テスト（業者テスト）があります。志望校を6校まで書くことができ、それぞれ合格率が%で表示されます。最高でも80%、最低でも20%、この数字、結構うまくできているわけで、最高80%止まりになっていけば、いざ志望校に落ちても、残りの20%になったわけで、いくら20%の合格率が出ていても、合格すればそれでよし・・・。

ただここで気になるのが、中学校側との三者面談などで志望校がある程度決まってきた、その学校を模擬テストで書き、結果が80%以上と出てくると、かなりのパーセンテージで今までのやる気が萎えてしまう子が出てくるということです。

「なんとか合格できるでしょ。」というわけで、今までの緊張感がなくなってしまうのです。逆に合格率が20%ばかりとなると、危機感ばかりが先走り、今まで集中していた気持ちも「どうしようどうしよう」と、何をやっているかわからなくなってしまう・・・。

そうすると、やはり「テスト」というものは、あまりいいものではないのかななどと感じてしまいます。

大切なことは、今をどう生き切るか・・・。

以前にも書いたと思うのですが、合格不合格など、競争的な要素の深い取り組み方をしていると、どうしても楽しさが感じられない。常に落ちたらどうしようなどと、不安感がつきまといまわってしまう。よし合格するぞ！と、毎日張り切って計画を立て、黙々と取り組む子は少ないと思います。

もっと先を見つめる・・・今が中学3年生であるなら、高校生活での勉強に手を出してもいいのではないのでしょうか。どんな世界が待っているのだろう。今行っている数学が、どんな発展をするのだろう。たとえば二次関数などは、中学までは原点で作られていたものが、宙を自由に飛び回ってみたり（2次元でのこと）、方程式が1つしかないのに、文字が2つあったり、サイン・コサイン・タンジェントなど、富士山の高さが今ここにいながらわかったり、（地図を見ないで）。

生物であれば、血液中の様々な要素がどのような働きを具体的にしているか。また、それは医学的にどのように役立っているかなど。いよいよ本格的に専門分野を学ぶべく準備段階に入ります。ただ言えることは、ここを卒業してやってくる高校生たちがやる勉強は、やはりテスト勉強だということです。まだ来るだけ偉いと思うのですが、やっていることはテスト範囲・・・。

以前見せていた自由な勉強の姿、毎日のようにパソコン釘付けで、調べ学習をしながら自分だけのノート作りに専念したりなどという風景はなかなか見られません。なぜならそのような学習をしようにも、後ろから押し寄せてくるものがあるからです。学校からの宿題やテスト勉強、受験のための勉強です。

この2者は大きなコントラストを持っています。やろうとするか、やらされているかです。

これは達成感に大きな違いをもたらすと思います。独学でこつこつと、それこそ1日一歩の世界、しかし自由がそこにはあるわけで、背中を押されるような威圧感もないわけで、1日が終わり、全くと言ってよいほど進展がなくても、よしまた明日があるぞ、と、気持ち新たに向かおうとするのかもしれない。

さて、受験生諸君たち、80%が出たからもういいやでは周りの人たちと全く同じ、この教室で学ぶことは自身が自身の手で自身を成長させるべく歩みをする。そのために栗田を思う存分利用することです。

けっしてあれやれこれやれなどと、命令はいたしません。ただ言えることは「歩みましょう。」

こつこつと積み重ねです。100あったら99は失敗です。残りの1をつかみ取る練習です。精一やって失敗を重ねる。これが「人」の厚みを増す方法。負ける人の気持ちを思う存分味わってこそ「人にやさしくできる」はず。

負けて負けて負けを積み重ねてこそ、真の強さをつかめるはず。

そしてもっと人としての魅力を深めることのできる方法があります。

負けた時、失敗したときに、自分のことだけにしないで、そのようなときにこそ「人」のために動けることができる人を目指してください。そんなことを平気でやってのけることのできる人を見かけたとき、深い魅力を感じるのではないのでしょうか。素敵なお気持ちになれるのではないのでしょうか。

さてあなたはどうか。自分のことだけになってしまっていないですか。自分の心の手が、そっととなりの人の心の手に触れたとき、そしてとなりの人がそれを感じてニコッと笑みを浮かべたとき、「人」を感じることはできるのでしょうか。

あなたがたはけっして1人ではありません。必ず誰かがどこかで見守っています。その一番近いところにいるのが家族ですね。そしてひょっとしたら友だちですね。そして私かもしれません。「迷惑だあっちイケー！」ですか。ハイ！ごめんなさい、わかりました。

というわけでそんな元気な姿を見られてうれしいです。ありがとね！